

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日 平成26年 6月11日			
所属学部・研究科	理学部 3年次 (留学開始時点)			
留学先大学	University of Nevada, Reno (国名: USA)			
所属学部・学科等名	Physics			
在籍身分	Exchange Student			
留学期間	平成25年 8月 16日 ~ 平成26年 5月 13日			
1. 渡航について				
ビザについて	ビザの種類: J1			
	ビザ申請先: 大阪			
	取得方法, 提出書類:			
	手続きに要した日数: 約2週間			
その他必要な事前手続き	銀行口座の開設 (国際間の外貨取引可)			
出国年月日	平成25年 8月 16日			
経路	大阪 - インチョン (韓国) - サンフランシスコ - リノ			
現地での出迎え	<input type="checkbox"/> 有 (・大学関係者 ・その他) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	学部生は8月21日に1時間ほど1回のみ			
帰国年月日	平成26年 5月 14日			
経路	リノ - ロサンゼルス - 成田			
2. 留学経費について				
所要経費	総額	2,500,000	円	
	内訳	渡航費	150,000	円
		保険料	100,000	円
		教科書代(学費)	50,000	円
		宿舍費	500,000	円
		食費	300,000	円
		その他 (旅行費)	800,000	円
(ショッピング費)	500,000	円		
(雑費)	100,000	円		
3. 授業について				
13年 秋学期	8月 26日 ~	12月 19日		

14年 春学期	1月 19日 ~ 5月 9日
年 学期	月 日 ~ 月 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	物理学科の授業を履修していた。
単位互換希望の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ※有の場合, 所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること
学術面に関する後輩へのアドバイス	予習復習が大切。単位互換を希望する場合は、事前準備を十分すぎるくらいにしておくべきではない。
4. 生活等について	
(1) 留学先の住居について	
住居の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ()
住居の広さ	約 20 m ² 同居人の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (8人) <input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input checked="" type="checkbox"/> 暖房 <input checked="" type="checkbox"/> 冷房 <input type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他 ()
住居費	1ヶ月当たり 約400ドル (現地通貨) 約 40,000 円
住居を決定した方法	<input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の紹介 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者 <input type="checkbox"/> その他 ()
留学先での住居全般に関するアドバイス	ミールプランは学生寮に住む学生は原則とらなくてはいけませんが、21歳以上であれば、入寮後約5日以内に手続きを行えば解除が可能。
(2) 医療について	
1日以上入院を要する病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した <input checked="" type="checkbox"/> しなかった
入院した場合	により 日入院
留学に当たり保険を	<input checked="" type="checkbox"/> 掛けた <input type="checkbox"/> 掛けなかった
掛けた場合	<input checked="" type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他 ()
掛け金は	年間 約100,000 円 補償額 死亡 円, 入院1日 円 その他 ()
留学前後での予防接種の必要の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
有の場合, その種類, 回数, 費用, 受けた医療機関名	具体的な種類は覚えていないが、合計で約30,000円かかった。 初めのオリエンテーションで大学から指示があるので心配しなくてもよい。
日常的な健康について不安が	<input type="checkbox"/> あった <input checked="" type="checkbox"/> なかった あった場合その理由:
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	歯科は高いと聞いた。

留学先での健康管理, 衛生面について特に注意すべきこと	生水を飲まないこと!	
(3) 危険を感じた地域, 状況		
ニューヨークのハーレム地区、シカゴのシカゴ大学の周辺、サンフランシスコのユニオンスクエアの北側、リノのカジノ街の東側 (非常に危ないので絶対夜間一人で出歩かないこと! 特に女子)		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
クレジットカードでJCBはほぼ使えないと考えていてよい。カードはよくハッキングされるので、3枚くらいあったほうがよい。理想はAMEX, VISA, Master, この3種類があれば何も怖くない。		
5. 帰国後の進路について		
卒業予定年月	平成 27年 3月	(当初の卒業予定年月 平成 27年 3月)
卒業が遅れる見込みの場合, その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他 (具体的に)	
現在の状況および今後の予定・進路等		
就職活動や留学前の単位取得, 教育実習等についての工夫	私の場合は、11月のポストンキャリアフォーラムでほぼ進路が確定していた。根性と果敢な交渉およびその技術の良し悪しで、留年は防ぐことができる	
6. 留学準備, 留学中に役立った書籍, ウェブサイト等		
書籍, サイト名	詳細 (出版社, URL 等)	コメント
7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)		
英語での交渉能力を鍛えるべし! 私は自身の交渉で約10万円得をした。		

学習の概要に関するレポート

以下では単位互換における意見や経験をシェアしたいと思います。

まず、単位互換について結論から述べると、非常に骨の折れる作業である。具体的に私が単位互換のためにしたことは、具体的な授業内容を示すシラバスが協定大学のネバダ大学リノ校には存在せず、自分で先生にインタビューをしながら作成した。その後、そのシラバスの内容が正しいという旨を認める署名を先生からもらい、本学に提出した。他に単位互換をする際に必要なものは、テストや宿題などの学習成果物、公式の成績証明書である。個人的な感想ではあるが、協定大学と本学との連携がとれてないと感じた。特に理学部はこのような留学に関する作業や手続きに慣れていない印象を持った。したがって単位互換を希望する学生は自分自身で留学前にしっかりと準備や本学の担当者とヒヤリングをすることを薦める。

また私は、「学生実験」の単位互換も行った。この「学生実験」とは私の所属する学科では研究室配属に必須の単位であり、これを取得できないと、自動的に留年となり、卒業年が1年遅れてしまうというものである。理系学部の学生にとっては非常に関心の高い事柄ではないだろうか。結果から述べると、単位互換は成功し、留年することなく卒業できるようにはなった。しかしながら、この単位互換の作業は非常に難航した。そもそも私が「学生実験」の単位互換を試みた理由は、13年11月のポストンキャリアフォーラムで内定をもらい、4年で卒業しなくてはいけなくなったからである。実のところ、この「学生実験」の単位互換に関して学部は否定的であった。そこで私は協定大学と交渉をし、通常のカリキュラムには存在しない実験の授業を特別に用意してもらい、それを履修した。しかしながら手違いから、決定していたカリキュラムを組みなおすという経験もした。また本学部の意図は分からないが、セメスターが終わる前に成績を提出するようにとの指示もあり、非常に苦戦した。これらの経験もすべて留学の醍醐味と言えばそれまでだが、何度も厳しい状況に立たされた。

今後卒業時期を遅らさないような留学を希望する学生に対してアドバイスできることは、しっかり準備をし、一見難しそうなことでも交渉してみることである。アメリカの良い文化として、型にはまらない柔軟な対応を取ってくれることが挙げられる。それをうまく利用することで難しい状況も打破できると感じた。

生活の概要に関するレポート

私の留学生活は、「学生実験」の単位互換に関することを除き充実していた。基本的な生活のサイクルは、午前中は授業を受け、昼からは図書館に行き、夕方からはジムで1時間ほど過ごし、夕食後はまた図書館で勉強をするという形である。具体的なデータに裏付けされているのかどうかは分からないが、ネバダ大学リノ校は国際色が強く、友好的な学生が多く、図書館に行っても、ジムに行っても、多くの友人に会うことができ、会話をし、有意義な時間を過ごすことができた。休日や長期休暇は友人とニューヨークやシカゴ、サンフランシスコなどアメリカ中を旅した。また会話パートナーというプログラムは本学にも存在するが、協定大学にも存在し、英語やその他の言語を学ぶには最高の場である。セメスター初めに、図書館近くのIELC（語学学校）のオフィスに行けば、誰でも簡単に申し込むことができる。ネバダ州はアメリカ西部に位置し、地理的にメキシコに近いことから、ヒスパニックと呼ばれるスペイン語を話す人種の比率がほかの州に比べて高いので、彼らと会話パートナーとなり、スペイン語を勉強している友人も多くいた。私の場合は、韓国語を勉強していたので、個人的に3人の友人とそれぞれ週1回のペースで韓国語の勉強をしていた。当然、会話パートナープログラムなので、こちらも日本語を教えなくてはならない。単純に英語だけではなく、その他の言語も学ぶチャンスは多いのではないだろうか。私は留学に行く前から韓国語を勉強していたので、韓国人とすぐ仲良くなることができた。事前に第2言語を習得していることは、友人を作る際、非常に役に立つと感じた。

私はWhite Pine Hallと呼ばれる学生寮において、ほか7人のアメリカ人と共同生活を送っていた。具体的には、ルームメイトが1人いて残りは、部屋は一緒ではないが水回りや共同スペースは共有するというものだ。みな1年生で週末の夜間、たまにうるさく感じるがあった。またルームメイトは部屋を散らかすことが趣味なのかどうかは分からないが、常に散らかしていた。散らかしように目にあまるときは、掃除してほしいとの旨を伝えていたが、この行動は共同生活を送るうえで非常に重要である。食事に関しては、1セメスター目はミールプラントと呼ばれるビュッフェ形式の食堂に行っていたが、味はよくないし、値段も高価である。2セメスター目はミールプランを解除した。しかしながら、私が住んでいた学生寮はキッチンがついていなかったため、友人と外食し、友人の部屋で料理を一緒に作って食べていた。余談ではあるが、韓国人は挨拶がわりに、「ご飯食べた？」と言う文言があるくらい、食事に重きを置いている。韓国人の友人をつくるということは楽しい食事と同値である。

確かに予期せぬハプニングは毎日のように起きていたが、ひとつひとつ適切な対応を取ることで、自主性、問題解決能力が己に身に付くと信じ、後輩には有意義な留学生活を送ってもらいたいと思う。